

博士（口腔科学）学位論文内容要旨

受付番号	第 号*	氏 名	谷 亜希奈
博士（口腔科学） 学位論文の題名	歯科保健指導における口腔内スキャナーの応用 —指導効果の検証—		
<p>目的：我々は、歯科保健指導に口腔内スキャナー（IOS）を活用することで、歯周組織の変化の定量化と可視化を図り、患者が歯周組織の状態を理解しやすくするとともに治療効果の診査の確度を向上させることを目的として検討を進めてきた。</p> <p>本研究では、従来の歯科保健指導方法と IOS を用いた歯科保健指導を比較検討し、IOS を用いた歯科保健指導の有用性について検討した。</p> <p>研究対象と方法：研究対象は、十分な歯科保健指導を受けた経験が無い本学教職員および学生 計 9 名（平均年齢 41.6 歳）とし、歯科衛生士 3 名が、以下の歯科保健指導を研究対象者ごとに 2 週間以上の間隔をあげ、順序を変えて実施した。</p> <p>① 従来法 1：鏡のみを利用した歯科保健指導、 ② 従来法 2：鏡に加え口腔内写真とスタディーモデルを利用した歯科保健指導、 ③ IOS 法：IOS 記録のみを利用した歯科保健指導</p> <p>各回の歯科保健指導時には、歯周精密検査、プラークコントロールレコード(PCR)及び歯肉の状態を記録するとともに IOS で口腔内を記録した。2 回目以降は、研究対象者に記録時の不快感や指導のわかりやすさについて調査票に回答してもらった。IOS の記録は、3D 測定データ評価ソフトウェアにて分析した。</p> <p>結果：IOS での記録では、従来の歯周組織検査よりも詳細に歯肉の変化を把握できた。IOS による記録を重ね合わせて求めた辺縁歯肉表面の偏差、すなわち変化量においては、プロービングデプス、歯肉の腫脹、発赤の検査結果及び BOP の変化との関係性が低かった。IOS を用いた歯科保健指導と従来の指導法との間には指導効果の差は認められなかった。IOS による記録を不快に感じる研究対象者がいたが、多くは IOS による保健指導は分かりやすく、受けたい指導であると回答した。</p> <p>結論：現状では IOS を用いた歯科保健指導の臨床的有用性は必ずしも高いとはえない。また、IOS の記録を 1 歯ずつ位置合わせすることで非常に詳細に歯肉の変化を把握できるが、非常に長い時間を費やすために臨床的に有用とはいえず、ブロック単位での位置合わせが適切と考えられた。しかしながら、IOS による記録は、これまでの歯周組織検査とは異なる視点で歯肉を詳細に評価できる方法であり、患者・術者両者にとって理解しやすい方法である。今後、研究を進めることで歯科保健指導に効果的に活用できる可能性があると考えられる。」と考えられる。</p>			

※欄には記入しないでください。

博士(口腔科学)学位論文審査結果の要旨及び調査委員の氏名

受付番号	甲 第 5 号	氏 名	谷 亜希奈
主 査 柳 本 和 俊 		副 査 楠 本 哲 次  副 査 西 崎 宏 	
<p>2023年1月28日(土)に大阪歯科大学天満橋学舎100周年記念会4階大講義室で公開された「2022年度大学院医療保健学研究科口腔科学専攻 学位授与調査会」において、申請者の口頭発表による説明と提出された博士論文を学位審査基準に基づいて、主査と2名の副査の審査委員が評価を行った。</p> <p>審査対象の論文は、歯科保健指導に口腔内スキャナーでの記録を利用することの有用性を検討している。保健指導毎に口腔内スキャナーで記録した歯肉の形状を重ね合わせて、変化を定量かつ可視的に提示することで、従来の検査法よりも患者にとってわかりやすい指導となる可能性を解明している。</p> <p>研究課題は、これまでに評価されていない新しい歯肉の評価方法についての検討であり、今後の歯科医療におけるデジタル化を進める非常に独創的な内容で今後の歯科医療の発展に大いに寄与できると評価した。</p> <p>研究方法は、審査対象の論文に到達する以前に基礎的なデータ収集を3編の先行論文によって十分に調査したうえで立案されている。また、研究方法の記載は詳細かつ簡潔であり、論文に従えば他の研究者が追試することは十分に可能である。また、結果の分析方法は、3次元データの評価ソフトウェアを利用して、2つの3次元データの偏差を正確に評価している。さらに、質問紙票への研究対象者からの意見を加えている。したがって、研究は科学的根拠に基づいた非常に適切な方法でなされていると評価した。</p> <p>研究結果は、得られた結果を正しく記載している。口腔内スキャナーによる歯科保健指導は、期待していた仮設とは異なり、従来の方法による指導に対して、必ずしも良好な結果を得なかったが、結果に基づいて正確に記載し、考察へとつなげている。また、9名の研究対象者の歯肉に非常に多くの計測点を求めることで、分析に必要な十分なデータを収集している。そして、それらのデータを適切な統計解析方法を用いて従来の歯肉の検査項目との関係を明確にし、それらを分かりやすい図表を用いて表現している。したがって、結果は信頼でき、適切な解析方法を用いて分析していると評価した。</p> <p>考察は、歯科保健指導や歯周組織に加えてデジタル技術に関する専門的な知識を十分に用いており、歯科保健指導への口腔内スキャナーの応用という研究目的に整合性のある内容になっている。さらに、文献の引用も適切である。また、口腔健康への貢献や今後の研究の進め方や発展性についても十分に考察されており、今後の歯科医療の発展に貢献できる優れた考察であると評価した。</p> <p>結論は結果に基づいて正しく導き出された内容であり、研究目的とも合致しており、口腔内スキャナーを利用した歯科保健指導について解明できた点について非常に分かりやすく記載されている。したがって、研究結果から正しく導き出され、今後の歯科医療に非常に有用な結論であると評価した。</p> <p>その他、学術論文に相応しい文章表現であり、記載様式や用語の統一性にも問題がないと評価した。</p> <p>以上を総合して、本審査対象論文は博士論文に相応しい内容であると評価した。</p>			

最終試験結果の要旨及び博士(口腔科学)学位授与審査調査委員の氏名

受付番号	甲 第 5 号	氏 名	谷 亜希奈
主 査 柿本 和俊 		副 査 楠本 稔次  副 査 西崎 宏 	
(最終試験結果の要旨)			
<p>2023年1月28日(土)に大阪歯科大学天満橋学舎100周年記念会4階大講義室で公開された「2022年度大学院医療保健学研究科口腔科学専攻 学位授与調査会」において、申請者の口頭発表による説明の後、主査と2名の副査の審査委員による口述試験を公開で実施した。</p> <p>審査委員からは、口腔内スキャナーによる記録と従来の歯周検査項目との関係性、今後の臨床での応用に可能性についての考え、口腔内スキャナーの求めた歯肉の偏差の大きさなどに関しての質問を行った。</p> <p>いずれの質問に対しても研究成果に正しく基づきながら、自己の知識と考えを的確にわかりやすく表現した回答を行い、審査委員として高く評価した。</p> <p>上記の口述試験の結果に基づいて、大学院医療保健学研究科(博士(口腔科学)学位授与調査会調査委員)の行った試験に合格した。</p>			